

様式第 2 号

視察研修先	北海道富良野市議会	氏名	國 井 輝 明
視察研修項目	ふらの版 DMO による地域密着型観光の推進について		
<p>単独市町村で解決できない共通の課題解決は①閑散期対策。②雇用(中小企業支援)の維持。③二次交通の維持。④規制緩和。⑤人材育成。⑥持続財源の検討。⑦共通景観(農業)・道路・河川の保全。を上げられるようだ。こうした課題を抱えながらもどのようにして人を呼び込めるかを、データを活用しながら成果を上げていた。</p> <p>その取り組みは、グーグルアナリティクス(Google が無料で提供する Web ページのアクセス解析サービス)の活用である。これを活用する事により、例えばどのような国の方が、どのような年齢層が、どのような物に興味(アクセス件数が多い事)を持っているのかを分析し情報を発信していた。</p> <p>こちらでは以下 4 つについて重視していた。</p> <p>1 つ目に、スマホサイトを優先して修正すべきという。スマートフォンによるインターネット閲覧割合の全世界的拡散は言うまでもない。スマホサイト改善の優先は必須であるという。</p> <p>2 つ目に、動画コンテンツを活用すべきという。インターネットにおいて動画閲覧の占める割合が、2016 年の 67%から、2021 年には 80%まで増加すると予測されているという。</p> <p>3 つ目に、中国からの Web サイト閲覧数増加に対応すべきという。中国からのアクセス及び中国語サイト閲覧数が増加しているため、閲覧目的を分析し、実来訪につながる情報提供へと改善すべきという。</p> <p>4 つ目に、基礎的なスマホサイトの改善とし、影響度の大きい 3 点は、急ぎ改善すべきという。「各ボタンを指で押せる大きさにする」「文字のサイズを大きめにする」「PC サイト間でリンク切れをなくす」とのこと。</p> <p>以上のことを改善するだけでも来訪者は増えるとのこと。</p> <p>これ以外には、地域連携の取り組みとして物販等でも言葉の使い方として富良野の文字は全てひらかなの「ふらの」を活用しているという。</p> <p>寒河江市においても、すぐにでも改善できることはたくさんあるので昨年よりも今年、そして今年よりも来年さらに多くの観光客が訪れるようしっかりと取り組んで行きたい。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	北海道富良野市議会	氏名	國 井 輝 明
視察研修項目	民間を主軸にした官民協働による複合的中心市街地活性化事業について		

北海道社会事業協会富良野病院の移転に伴い、空き地や未利用地が大量に発生したことにより、富良野市中心市街地の課題として、商店街が衰退し売り上げが減少し、又、後継者も少なくなっていたことにより、店舗数が減少し、賑わいが喪失していった。この事により中心市街地の魅力も喪失した。

この課題を解決すべく富良野市では平成 7 年から 20 年間民間と協力しながら取り組みを実施していった。

中でも「ふらのまちづくり株式会社」を設立し中心市街地活性化事業の推進母体にしたことがとても大きい。このまちづくり株式会社とは商工会議所を中心に 64 の企業・団体・個人が出資し資本金 8,350 万円(内、市からは 100 万円のみ)を募り、商工会議所役員で経営責任を持つ体制を作り上げた。

人がストレスなく歩ける距離というものは半径 200m との考えから、その距離を切れ目なくつなげ、人の流れを線として作るために拠点施設をうまく設置している。

まず 1 つ目の事業は、フラノマルシェである。主に富良野市の特産物の販売を行なっている。中心市街地に観光客の取り込み拠点を作り来街者を増やし「まちなか観光」の情報機能を充実させ、商店街と連携をはかりながら街中回遊を促進し歩行者数の増加を目指し、中心市街地全体の活性化につなげることを目的としている。

2010 年度当初は年間 55 万人であったが、2018 年度には 120 万人を超える入込数となっている。

2 つ目に、市街地再開発事業、通称ネーブルタウンである。

こちらにも、まちづくり株式会社が施行し、1 街区には、店舗併用住宅 7 棟を建設。2 街区には、複合商業施設・認可保育所・店舗併用住宅 1 棟を建設。3 街区には、介護付き高齢者賃貸住宅(保育機能付き)・内科クリニック・調剤薬局・住居専用住宅 1 棟を建設し確かな経済成果を上げていた。

3 つ目に、フラノ・コンシェルジュ事業である。これは空き店舗ビルをリノベーションし「観光・滞在・食」をテーマとするおもてなしの複合施設であり、1 階は富良野物産観光公社があり、物販販売や飲食ができるフロア。2 階には富良野市経済部商工観光課、ふらの観光協会、富良野商工会議所が入っている。3 階には簡易宿泊施設を設けて低額で宿泊できるようになっており、主にインバウンドへ対応している。4 階にはラジオふらのがある。

以上、3 つの拠点を築きしっかりと波及効果を出していた。

様式第 2 号

視察研修先	北海道上川郡美瑛町議会	氏名	國 井 輝 明
視察研修項目	廃校を活かした取り組みについて		
<p>美瑛町においても、総人口の減少とともに、昭和 36 年頃から児童・生徒数の減少により閉校・統合が始まっていた。</p> <p>昭和 46 年度には、小学校 20 校、中学校 4 校であったが、現在は小学校 5 校、中学校 2 校となっていた。</p> <p>美瑛町では、過疎地域を中心に児童生徒数が減少、小規模自治体が多い北海道では統廃合が顕著、過疎地域における小中学校は、単に教育施設としてだけではなく、地域コミュニティの中核施設としての役割を担う貴重な公共的財産である。廃校は子育て世代の転出を促すだけではなく、地域のコミュニティの衰退を加速化させる可能性があるため、できる限り有効に活用されることが望ましいと考え、「思い出のたくさんつまった校舎をずっと残していきたい」「違う形で活用したい」との考えから地域コミュニティの中核として活用することを決断し取り組まれていた。</p> <p>廃校を活用することは、既存施設を活かすことで初期費用が抑えられる利点があり、新たなビジネスを生み出す可能性がある。町民にとってなじみの深い施設であり、町民が足を運びやすく、交流しやすいことから活動拠点としてふさわしいとの考えも持っていた。</p> <p>廃校の主な取り組み事例としては、①風景写真家の故前田真三氏の写真ギャラリーがあり、美瑛の欧州的な田園風景がテレビ CM など使われ、多くの観光客が町を訪れるようになった。②玉ねぎ等食品加工工場。③俳優の榎木孝明さんの水彩画などを展示する美術館。④農産物加工交流施設とし、こちらで製造した 1 次加工品が使用されている美瑛町の主な商品として販売される。そして私たちが訪問したのが⑤北瑛小麦の丘体験交流施設であり、こちらでは「農業・食・観光」の体験交流施設となっている。オープン当初から有名シェフがこちらでのレストラン経営に携わりマスコミが殺到したとのことで、都市と農村との交流、地元農産物の販路拡大、観光客入込数の増加に貢献している。我々も食事をさせて頂いたが大変美味しく、平日のお昼すぎにも関わらず店内は多くのお客様が訪れていた。この他にも⑦として、ヤフー株式会社より、美瑛町に「ベース」(オフィス、自宅に次ぐ第 3 の拠点)設置するために基本合意書を締結した。これにより、ヤフー株式会社から人材の派遣。異業種人材育成研修として人材開発と地域の課題解決が図られる。また町内学校での IT 教育としてヤフー株式会社の職員を講師にプログラミング教室の実施。そして e コマースを活用(美瑛製品のネット販売)など積極的に行ってくれるという。</p> <p>とても素晴らしい取り組みと感じる、しかし感じるところにやはり景色で有名である事や観光地であるためにこうした有名企業なども乗り出してくるのかと考えると寒河江市で同じ取り組みをすると考えるとハードルの高さを感じてしまう。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	北海道千歳市議会	氏名	國 井 輝 明
視察研修項目	千歳市防災学習交流施設「そなえーる」について		
<p>防災学習交流施設は、総面積 8.4ha で 3 つのゾーンからなり防災訓練広場、ロープ訓練棟、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練棟、常設ヘリポート、駐車場などを完備している。</p> <p>「そなえーる」は、災害を「学ぶ」「体験する」「備える」をテーマに、災害の疑似体験や防災学習を通じて、防災に対する意識を高めてもらうことを目的に、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具などを備えた施設となっている。</p> <p>「学びの広場」では、造成に伴う雨水調整池と消火体験や救出体験を通し、自助・共助を学ぶ広場になっている。</p> <p>「防災の森」では約 150 人がキャンプに利用できる「野営生活訓練広場」と調整池を兼ねた「多目的広場」や湧き水を利用した「河川災害訓練広場」、「土のう訓練広場」、さらにアスレチック遊具などを備える「サバイバル訓練広場」など共同作業が体験できる広場となっている。</p> <p>市民の防災意識を高めるため、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による消火・救出等の防災訓練、救急救命率向上への救急講習会、市民を対象とした千歳市民防災講座や町内会、自主防災組織及び事業所等を対象とした防災関連講座、防災イベントなどの事業を展開している。</p> <p>防災学習交流施設の利用状況としても、オープン時の平成 22 年度から 3 万人を超えており、開設から 10 年目には 40 万人を突破しているとのことで市民の意識の高さが伺えた。</p> <p>今後の課題としては、展示施設や体験施設の利用だけでなく、防災学習や防災訓練などに多くの参加をいただき、自主防災組織や防災関係団体などと連携して各種防災事業に取り組むことや防災面以外でも様々な分野で施設や各種講座の活用ができるよう、施設運営を工夫していく必要があるという。</p> <p>災害の少ない寒河江市においても、防災訓練等を通し市民の意識を高める取り組みを継続していく大切さを考えさせられた。</p>			